

このリーフレットをつくった

社団法人和歌山県青少年育成協会って?



次代を担う青少年の健全育成を図るために、様々な取り組みを行なっています。

また、県内すべての市町村に、青少年の育成活動を推進するため設置されている市町村民会議と連携しています。



こんなことをしています。

■少年メッセージ

中学生が日常生活の中での実体験などを通して得た自らの考え方や将来の夢を発表することにより、大人が今の中学生の考え方を深く理解するとともに未来を担う若い世代の育成を図っています。

■**〈家庭の日〉運動の推進**

毎月第3日曜日は**〈家庭の日〉**

家族みんなが温かく心ふれあう機会を持ち、明るく楽しく家庭づくりを進めるきっかけにと、和歌山県では毎月第3日曜日を家庭の日と定め、家庭の日などに優待券で協賛店舗や施設などで各種サービスが受けられることができる「家族ふれあい優待制度」を実施しています。

※詳しくは当協会のホームページで

●絵画作品募集

県内に在住または通勤・通学している小学生以上の方から、「家庭・家族」をテーマにした絵画を募集し、優秀作品は表彰するとともに「家庭の日」の啓発等に活用します。

《《編集委員》》

米澤好史 和歌山大学教育学部教授
室みどり 和歌山信愛女子短期大学名誉教授
田中いずみ 県教育委員会生涯学習課社会教育主事
今田一里 那賀振興局地域振興部主任
稻垣峰佳 県青少年・男女共同参画課主査
上野悦子 和歌山市保育所管理課保育専門員

●「家族そろって新入生」リーフレット作成

こどもと一緒に学んで育つ親になるためのリーフレットを作成し、県内の小学校入学前の年長年齢児童の保護者全員に配布しています。

＜平成22年版の声・感想＞が届いています。

- ◆チェックリストを通して、こどもがどう思っているのかを改めて知ることが出来て良かった。
- ◆わかっていてもつい忘れてしまう「こころがけ」を思い出させてくれた。
- ◆親として、見直さなければならないことがたくさん書かれていて、自己反省した。
- ◆ほめ方、叱り方が少し間違っていたかも…。こどもを叱っても、よく「ママもしてたやん」と言われる所以、まず、自分がお手本になります。

その他いろいろ

■リレー式次世代健全育成事業

青少年の家で、様々な体験活動を通じ、明日の青少年リーダーを養成! 詳しくは当協会のホームページで!

他にも青少年のリーダーを育成する事業や指導者の資質向上のための事業、また、青少年団体の活性化など、いろいろな事業に取り組んでいます。

編集後記

このリーフレットは、親子で小学校の環境にスムーズに適応できるよう役立てていただきたいと平成19年から作成し、今回で5冊目になりました。こどもの関わり方で、「聞けばごく当たり前のことも、そのように接していないことに気づく」、「今の時期だからこそ、大切だということに気づく」、「保護者とこどもの考え方の違いに気づく」、それらのことにつつでも多く気づいてほしいという想いで作成しています。これからのお育てのお役に立てばうれしいです。

家庭の日啓発促進事業

毎月第3日曜日は**〈家庭の日〉**

家族そろって 新入生

元気な紀州っ子を
応援します!



この「家族そろって新入生」は、こどもの小学校入学にあたって、学校生活へのスムーズな適応に対し、おとうさん、おかあさんに特に大事にもらいたい**〈こころ〉****〈からだ〉****〈まなび〉**の3つの分野を取り上げました。

こどもが家庭の外に世界を広げ、急速に成長するこの時期は、親としてもこどもの変化に驚き、とまどうことばかりだと思います。

おとうさん、おかあさんとこどもを応援するためにこのリーフレットを作成しました。家庭での教育やしつけについて、家族そろって考えてみてください。

仕事と家庭の調和を大切にし、家族がふれあう時間をたくさんとて、子育ての時間に喜びや楽しみを持てるようにしましょう。



こころ お子さんは自分自身のこと好きですか？

家族そろって新入生

お互いを認め合うためのチェックリスト

お子さんにとって、わかりにくい質問があれば、
わかりやすい言葉で説明してください。

チェックリスト まず、お子さん自身に、質問してみてください。

お子さんが、「そうだ」と答えたものに○、

「ちがう」、あるいは、「わからない」と答えたものに×をつけてください。



親子でチェック

番号	O・X	チェック項目
1		わたしは、おうちにいるとほっとします
2		わたしは、じぶんはいろんなことができるときあります
3		わたしは、あそぶことが好きです
4		わたしは、おともだちにやさしくできます
5		わたしは、えほんが好きです
6		わたしは、小さい子やいきものおせわが好きです
7		おとうさん・おかあさんは、わたしのきもちをわかってくれます
8		おとうさん・おかあさんは、うれしいときいっしょによろこんでくれます

チェックリスト 次に、お子さんとの日頃の接し方について、チェックしてみませんか。

あてはまるものに○、あてはまらないものに×をつけてください。

ぜひ、お子さんといっしょに、「こうしてる？」など聞きながらやってみてください。



番号	O・X	チェック項目
1		子どもの話すことは、どんなことでも「そうだね」と、まず受け止めている
2		子どもの苦手なところを克服させるようにしている
3		子どもといっしょに考えることを大切にしている
4		子どもを叱るときには、きょうだいや友だちと比べている
5		子どもの得意な面を伸ばすよう心がけている
6		子どもが望んだことは、何でもそのとおりにしてあげている
7		子どもが悪いことをしても、子どもの言い分をしっかり聞くようにしている
8		子どもが話そうとする前に、親の言い分を伝えてしまう
9		子どもがどんなことを考えているのか、いつもわからうとしている
10		子どもには、まず何が正しいかを教えている

＜分析＞

Iは、○の数を数えてください。IIは、奇数番号の○の数と、偶数番号の×の数を足して合計してください。

$$\text{Iの○の数}(\quad) + \text{IIの奇数番号の○の数}(\quad) + \text{IIの偶数番号の×の数}(\quad) = (\quad)$$

Iは、子どもの自己肯定感の強さをはかっています。IIは、子どもの自己肯定感を育むための良いかわりが奇数番号、そうでないかわりが偶数番号となっています。

単なる合計数で判断するのではなく、一つ一つの項目について、解説を参考にし、親子で話し合いながら、素敵な関係について考えてください。

子どもの関係をありかえり、子どものやる気につながる自己肯定感を育んでいましょう！

1年後、お子さんが2年生になる前に、このチェックにもう一度、挑戦してみてはいかがでしょうか。

■合計が14以上：その素敵なかかわりが子どもの気持ちを受け止め、自己肯定感を高めます！

■合計が10～13：子どもと良い関係ができています。子どもの微妙な気持ちの変化にも敏感に！

■合計が7～9：子どもをしっかり受け入れてみましょう。子どもの笑顔が待っています！

■合計が4～6：子どもの立場に立って、子どもが嬉しいと思えるかかわりを振り返ってみては？

■合計が0～3：子どもの思いに耳を傾けて、いっしょにいろいろ感じ合えるやりとりを！

「今日ねえ、○○ちゃんがねえ、鉄棒にぶら下がれたんだよ。」

「○○君ねえ、つみきで遊んでいるときにゆずってくれたんだよ。」

「○○ちゃんはお絵かきがすごく上手なんだ。」「○○君は走るのがすごく速いんだ。」 等々

いつも自分のこどもを他のこどもと比較していませんか。

自分の子育てに自信がないと、比較することでしか自分のこどもの良さを確認できないことが多いです。他の子と自分の子をすぐ比較してしまう人は、子育てに対する不安が根底にあるといわれています。だから他のこどもの長所ばかりに目がゆき、自分のこどもの良さが見えにくくなってしまいがちです。

いつも比べられ、自分の短所を指摘されて育った子どもが、自分に自信を持てるでしょうか。比べることでしか評価されずに育った子どもが、素直に友だちの良さを認め、受け入れができるでしょうか。自分自身に自信を持てない子どもは、いつも友だちと比較して自分の置かれた位置や居場所を探すようになります。年齢が進むにつれてその傾向が強くなります。

こどもが自分に自信持てる子育て、自己肯定感を育む子育て、

それはそんなに難しいことではありません。

まずは人と比べて、こどもを評価しないことです。わが子のいいところをしっかりとほめてあげてください。そして、失敗をしたことを責めず、努力を認めてあげてください。

子どもの小さな成長を敏感に感じ、言葉で表現することにより、こどもも自信をつけます。

笑顔とほめ言葉のあふれる家庭では、こどもが安心し、心も表情も豊かになるはずです。

チェックリスト I の解説

番号	O・X	解説
1		家庭に居場所があり、愛情に包まれている証拠です
2		自分はできるという思いが、新たな意欲ややる気につながります
3		遊びの中で人間関係など様々なことを学びます
4		心が満たされていると、周囲にもやさしくできます
5		心の「栄養」を蓄えます
6		自分が大切にされていると、他者も大切にできます
7		くじけそうになった自分を支えてくれるという安心感を感じます
8		喜びを共有してくれることにより、自己肯定感が育ちます

チェックリスト II の解説

番号	O・X	解説
1		子どもの話を共感的に聞くことにより、安心感を与えます
2		苦手を克服するより得意なものを伸ばすほうが、意欲や自己肯定につながります
3		親子の対話を生まれるし、多様な考え方を身につけることもあります
4		比較して叱ることにより、劣等感等をうつづける可能性が高くなります
5		やる気と自己肯定感を高め、苦手なことにも意欲的に取り組む契機となります
6		子どもの気持ちを受け止めること、要求をすべて受け入れることとは違います
7		子どもの言い分を聞くことにより、子どもの自己反省をうながします
8		一方的な伝達は、子どもの感情のアレをうみます
9		わかるようとする姿勢が、子どもの成長を敏感につかむことになります
10		子どもは間違いや失敗の中から多くのことを学びます



からだ

入学を前に基本的生活習慣・社会的生活習慣の見直しを

家族そろって新入生

学童期を前に家庭で準備すべきこと

昔は、地域に異年齢のこども達の遊び集団がありました。群がって遊びを楽しむ中で、集団活動でのルールを覚え、発達段階に応じた遊び技術を養い、人とのコミュニケーション力を育てながら社会性を身につけてきました。次の成長段階のモデルを見ながら育つことができたのですから、こども達にとっては、幸せな育ちの環境であったはずです。今、こうした「こども社会」を無くしたこども達には、基本的生活習慣や規範の意識、コミュニケーション力が育っていないことが

問題視されており、学童期からは「生きる力を育む」教育に取り組んでいるのです。「生きる力の基礎」を育む幼稚園、保育所においては、就学前のこども達は互いに生活や遊びを通して、小学校での文字、言葉を使っての学びの段階に必要な「話し言葉の獲得」や、「友達と集団で活動できる力」を培ってくれているのです。

さて家庭においては、お子さんの入学を前に、どんな準備が必要なのでしょうか。小学校教育への適応に重要な支援が求められているのです。

よく学び、活動する力を支える

睡 眠

こころとからだを育てる



- 10時間程度のよい眠りで、脳とからだがつくられる（大人の睡眠とは異なる）
- 昼間のイキイキ笑顔は、前夜のよい眠りから
- 成長ホルモンの多量な分泌は、静か・消灯が必要条件（眠りを強くするホルモン[メラトニン]は、暗い所で多量が分泌）
- 集団登校時間と起床時間を合わせて、食事、排便を見通し起床時間

食 事

こころとからだをつくる



- 生活リズムの基本に朝食、夕食をおく
- 朝食は、学校生活のエネルギー
- 家族で楽しむ食事は、こころの自立のエネルギー
- こどもの食事は、将来の食生活の基礎づくり



- 目をあわせ、人の話をしっかりと聞き、思いを言葉ではっきりと伝えられるかの確認をしておきましょう。
- 時間的に、生活の流れを見通せる力を育てておきましょう。
- 依存から一歩一歩の自立の姿を、これまで以上の愛情で支えましょう。

学びと活動の基盤となる

小学校生活への適応を支える

仲間と遊べる力を支える

運動



固定遊具遊びを通じて
45分間座り、集中できる背筋力を!

友達づくりの力を支える

あいさつ・ルール



身近な大人がモデル!

- 集団生活へのよりよい適応条件は、上手なあいさつとルールを守れる力!
- 「できている!」「それでよい!」と認める言葉で自信を育てる

こんなことも気をつけて

- 防犯ブザー・ゲーム機・カギなどのひもは、首に絡む危険性大。
- ランドセルは、重くないですか？必要なものだけを準備して。
- 親子で事前に通学路を点検して、危険な場所

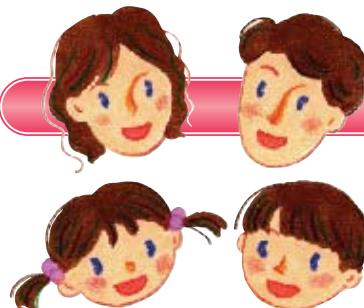
- では十分な注意を。
- 家庭での冷暖房は、学校での生活を考慮して。
- 和式トイレも使えますか？
- 利き手は無理に矯正しなくとも大丈夫。
- 虫歯の治療も忘れずに。



まなび 親子で学ぶ楽しさ

家族そろって新入生

こどもが小学校に行くことで世界が広がるように、おとうさん、おかあさんの世界もそれとともに広がります。物事を知ったり、わかったりする楽しさは、まず親が率先してみせることで、こどもに伝わります。実は、こどもの学習の一番の基本は、「まね」をすることなんです。



親の背中から

こどもは「大人になったら、おとうさんのようになりたい、おかあさんのようになりたい」と思います。

親の役割

子どもの目標、モデル、家族が安心できるより所

- 親は、経済力ばかりでなく精神的にも安心を与えられる存在です。
- 親が先生との信頼関係を築くことが子どもの成長に良い影響を与えます。

家族の“きずな”が子どもの発達・成長の土台となります！

親として、子どもの気持ちを受け入れることが、子どものやる気につながります！

幼稚園児や小学生を対象とした調査で、親や先生に大切にされていると感じている子どもほど、勉強やいろいろなことへのやる気が育っていることがわかってきます。

もっとも効果的な学習方法は、親がお手本をしめすことです！

親のようすをじっと見ていて、親が使った言葉を、適切な場面で、見事に使う子どもをよく見かけます。一度も練習しなくとも、間違えることなく学んでいます！

こどもを大切にし、いいお手本になることが、子どもの学びを支えます！



こどもにはことばで言うより、
手本を見せてあげましょう！
いっしょにすることから
始めましょう！

親の背中から

こどもは「大人になったら、おとうさんのようになりたい、おかあさんのようになりたい」と思います。

親の役割

子どもの目標、モデル、家族が安心できるより所

- 親は、経済力ばかりでなく精神的にも安心を与えられる存在です。
- 親が先生との信頼関係を築くことが子どもの成長に良い影響を与えます。



わが家のルールをつくろう

大切にしたいのは、子どもの生活リズムです。こどもと話し合って家族でルールをつくりましょう。

■起きる時間

時 分

朝ごはんは子どもの
目覚まし時計！

■寝る時間

時 分

「寝る子は育つ」は
科学的にも本当！

■夕食の時間

時 分

一家団らん、楽しい時間

■お手伝い

どんなお手伝いを
しますか？

■本を読む時間

時 分から

家族で読書
コミュニケーション！

■わが家のルール

わが家のルールを
書きましょう！

家庭で本を読んでいますか？

こどもに本を読んであげていますか？

- 本は、こどもに想像力や考える力を身につけさせ、豊かな感性や情操などを育みます。
- ゲームはゲームの世界にこどもを閉じ込め、現実の世界での解決力を奪います。
- 忙しい毎日ですが、こどもといっしょに本を読むひとときを作りませんか。
- テレビを見るのやゲームをするのをやめて、毎日少しでも本を読んでみませんか？

読み終わった本のことを、こどもと話し合いましょう。

- 読み聞かせは、親子のコミュニケーションを育みます。
- 親子のコミュニケーションは、子どもの不安感を和らげ、学校生活への適応を助けます。
- 新しい生活が始まろうとしている今、ぜひ家族で本を読みましょう！